

# 放射線健康リスク科学人材養成プログラム

## 放射線健康リスク科学ネットワーク



## 長崎大学・広島大学・福島県立医科大学共同事業

放射線災害を経験し、放射線健康リスク科学に関する教育リソースを有する3大学が連携し、リアリティの高い放射線健康リスク科学教育に基づき、段階的・組織的な教育体制のもとで、放射線グローバルヘルスにも貢献できる人材を養成。

### 学部教育における新たな教育プログラム

- 平成29年度より医学科2年次環境因子系講義実習及び医学ゼミを放射線健康リスク科学コースに大幅改訂、推薦入試国際保健医療枠（平成30年度よりグローバルヘルス研究医枠（仮称）に再編成）に放射線健康リスク科学コース開講（長崎大）
- 従来の放射線生物学を平成28年より放射線健康リスク学に再編成、座学に加え実習も実施（広島大）
- 従来の放射線生物/災害教育(6時間)から平成24年より行っている放射線生命医療学&PBL(3年生40時間)、放射線災害医療BSL(5年生27時間)の再評価を平成28年度より施行（福島県立医大）

### 大学院教育における研究者養成

- 共同大学院「災害・被ばく医療科学共同専攻（修士課程）」（長崎大・福島県立医大（平成28年～））
- 博士課程教育リーディングプログラム「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」（広島大（平成23年～））

### 高度プロフェッショナル養成

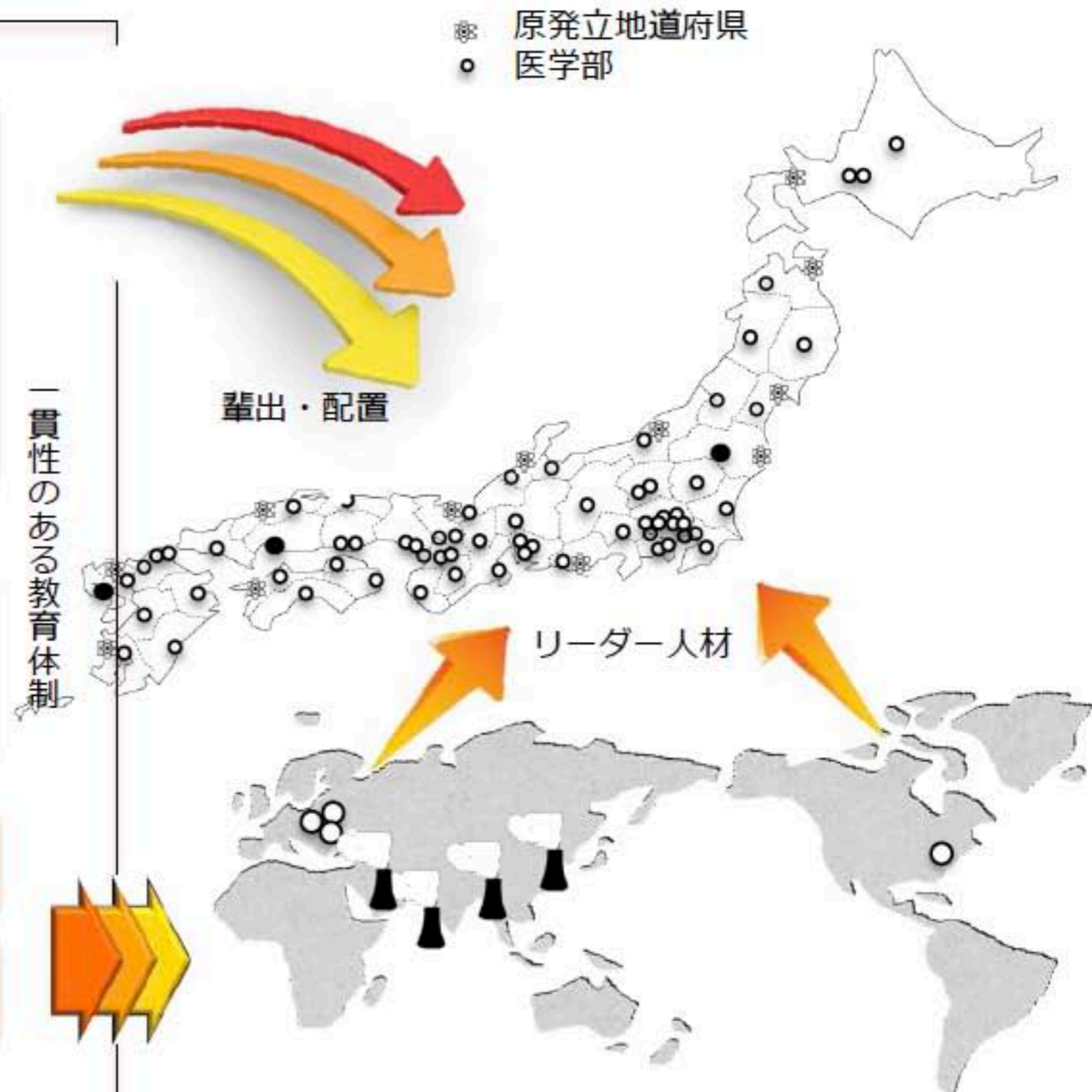
- ネットワーク型放射線災害・医科学研究拠点（広島大、長崎大、福島県立医大、平成28年4月設置）

### グローバルヘルスと原子力災害に対応

- 高度被ばく医療支援センター/原子力災害医療・総合支援センター（長崎大、広島大、福島県立医大、平成27年10月指定）

## 放射線健康リスク科学リソースセンター構想

放射線健康リスクに関わる部局、専攻、センターのヒューマンリソース、教育研究機器資材、教育コンテンツ、知識・経験等を横断的、網羅的に把握、活用



国際機関への人材供給  
エネルギー需要の拡大による地球規模での原子力リスクへの対応